

自然エネルギーと発送電分離 電力を市民の手に！

「自然エネルギーだけでつくられた電気を使いたい!」「値上げなんてやるせない、電力会社からはもう買いたくない!」

そう思っても、今の私たちは、家庭で使う電気を選ぶことはできません。

原発から自然エネルギーを中心とした社会に転換するための鍵となるのが、発送電分離です。

現在の地域電力会社が独占している送電網を開放し、地域の再生可能エネルギー事業者も参入できるようにしようと
いうものです。原発事故後のエネルギー政策見直しで、経済産業省でも電力システム改革が議論されています。政
府の案はどのようなものか、自然エネルギー社会の実現につながるのか、飯田哲也氏を迎えて検討していきます。

また、各地ではすでに始まっている市民電力の取り組みは、地域の資源や人をつなげ、ボトムアップで社会を変えて
いく大きな可能性を持っています。

電力を市民の手に取り戻すために何ができるか、各地のパイオニアとともに考えます。

日時：2012年11月3日(土・祝) 16:00～19:15(開場15:30)

場所：カタログハウス セミナーホール(地下2階)

東京都渋谷区代々木2-12-2 カタログハウス本社ビル地下2階

資料代

一般：1200円(資料ブックレット付き)
*ブックレット持参の方は500円

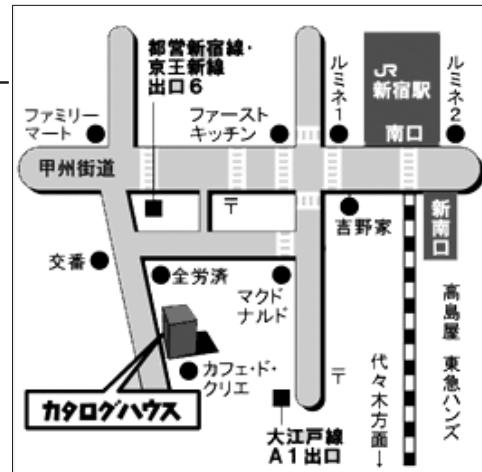
学生：1000円(資料ブックレット付き)
*ブックレット持参の方は300円

申込・問合せ

eシフト事務局(FoE Japan内)
電話03-6907-7217
ウェブサイトより <http://e-shift.org>
お申込みください。



[資料] eシフトブックレット
脱原発と
自然エネルギー社会のための
発送電分離
合同出版／700円(税込)



プログラム

第1部 政府の電力自由化は 自然エネルギーを進められるか!?

- 政府で検討されている電力自由化とは?
- それは脱原発・自然エネルギー促進につながるの?
- 今の電力会社はどうなる?

○趣旨説明と概要
竹村英明氏(エナジーグリーン株式会社)

○講演と質疑

飯田哲也氏(環境エネルギー政策研究所所長)

第1部コーディネーター：泊みゆき氏(バイオマス産業社会ネットワーク理事長)

第2部 各地で市民電力の取り組みがはじまった！

- 各地で始まっている市民の取り組み。その手法や現状・課題は?
- 他地域への波及の可能性は?
- パネルディスカッション
小田原電力(仮) 鈴木悌介氏(エネルギーと経済を考える経営者会議世話人代表)
世田谷電力 高山 博氏(世田谷区産業振興公社常務理事・事務局長)
いわきコミュニティ電力 大和田順子氏(サステナブルコミュニティ・コーディネーター)
神奈川生協の取り組み 鈴木伸予氏(生活クラブ神奈川)
第2部コーディネーター：奈良由貴氏(足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ)
○会場との質疑応答

*終了後、19:45頃より懇親会を予定しています。(希望者のみ)
参加者、ゲスト、eシフトメンバーとの交流で、議論を深めましょう。
参加費は実費(調整中) ※要申込

主催：eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会) 後援：合同出版

eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)

2011年3月11日の福島第一原発事故を契機に、脱原発と
自然エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー政策
を実現させることを決意した、団体・個人の集まりです。

1「事故被害の最小化」と「責任所在の明確化」

2「脱原発と持続可能なエネルギー政策に向けた政策提言づくり」と「その実現」

3「市民への有益な情報発信」と「社会的ムーブメントの巻き起こし」
の3つの分野で活動を展開しています。

政府の電力自由化は 自然エネルギーを進められるか!?



■飯田哲也（いいだ・てつなり）：講演&対談

環境エネルギー政策研究所（ISEP）所長。原子力産業や原子力安全規制などに従事後、北欧での研究活動などを経て I S E P を設立し現職。自然エネルギー政策の国内外における第一人者。ブックレット『脱原発と自然エネルギー社会のための発送電分離』の1章を執筆。『エネルギー進化論』（ちくま新書）等著書多数。



■泊みゆき（とまり・みゆき）：対談

NPO 法人「バイオマス産業社会ネットワーク」理事長。（株）富士総合研究所で 10 年以上、環境問題、社会問題についてのリサーチに携わる。2001 年退職。1999 年「バイオマス産業社会ネットワーク」を設立、共同代表に就任し 2004 年 NPO 法人取得にともない現職に就く。

各地で市民電力の取り組みがはじまった！



■鈴木梯介（すずき・ていすけ）：パネリスト

鈴廣かまぼこグループ代表取締役副社長。エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議代表世話人。全国の中小企業や団体の経営者らが脱原発を掲げ「エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」を立ち上げ、脱原発を唱えるだけでなく「原発がなくても経済は回る」ことを地域からの実践で証明していく考え。小田原の「再生可能エネルギー事業化検討協議会」の委員も務める。地元での実践をめざす。小田原箱根商工会議所青年部会長。日本商工会議所青年部会長などを歴任。

小田原電力（仮称）

神奈川県小田原市では、市と民間企業からなる「再生可能エネルギー事業化検討協議会」が「小田原電力（仮称）」の設立を目指し、2011 年 12 月に立ち上がり、2012 年 12 月には太陽光発電の会社を設立する予定。将来的には地の利を活かした小水力発電にも取り組むことも検討中。



■高山博（たかやま・ひろし）：パネリスト

世田谷区教育政策部長、会計管理者等を経て、（公益財団法人）世田谷区産業振興公社常務理事・事務局長。「世田谷区自然エネルギー活用促進地域フォーラム」のメンバーとして活動中。

世田谷電力（世田谷区の取り組み）

2011 年 6 月に東京電力に区内の電力使用量の情報開示を要望。2012 年度より庁舎等への節電器具の導入設置。2012 年 1 月に世田谷区施設 111 箇所の電力入札実施。2 月に世田谷区自然エネルギー活用促進地域フォーラムを設置。3 月に東京電力大口契約値上げへの対応批判。7 月に世田谷区サービス公社による「太陽光パネル」1000 セット販売開始。2 月と 9 月に枝野経済産業大臣へ電力自由化の促進を要望する。



■大和田順子（おおわだ・じゅんこ）：パネリスト

サステナブルコミュニティ・プロデューサー。認定 N P O 法人 J K S K 理事。総務省・緑の分権改革調査事業アドバイザーとして宮城県大崎市、福島県いわき市、富山県南砺市のプロジェクトに取り組んでいる。また、N P O 法人 J K S K による東北と首都圏の女性の交流による復興支援「結びプロジェクト」の実行委員も務める。近著に『アグリ・コミュニティビジネス—農山村力 × 交流力で紡ぐ幸せな社会—』（2011 年、学芸出版社）等がある。

いわきコミュニティ電力

福島県は再生可能エネルギーのボテンシャルが高く、その中でも、いわきは「サンシャインいわき」と呼ばれ、東北地方で年間の日照時間がもっとも長い地域である。現在、いわき市でも自然エネルギー導入の動きが見られるが、その多くは外部資本によるもの。地域再生には、市民自らが自然エネルギーを活用し、新たないわきの産業を創出することが必要と考えられる。市民向け自然エネルギー学校、小水力や太陽光の適地探索フィールドワークやマップづくり、そして市民出資による「いわきコミュニティ電力」事業の実現に向けて、今年度は体制やしくみを構築している。



■鈴木伸予（すずき・のぶよ）：パネリスト

2004 から 07 年まで、かわさき生活クラブ理事長。2008 から 11 年、生活クラブ神奈川副理事長、生活クラブ風車の建設に携わる。2012 年 7 月から、生活クラブ風車の一般社団法人グリーンファンド秋田事務局長。

神奈川生協の取り組み

自分たちで使う電気を自分たちで作ろう！と、東京・神奈川・千葉・埼玉の生活クラブが共同で出資と融資、組合員カンパで、秋田県にかほ市に、生活クラブ風車「夢風」を建設した。風車で発電した電気は、グリーン電力証書とセットにして、生活クラブの 4 1 事業所にグリーン電力として 4 月から供給している。生活クラブ風車をモデルとして、脱原発・再生可能エネルギーへのシフトをすすめ、市民の共同でエネルギーを自治する未来の実現をめざしている。



■奈良由貴（なら・ゆき）：コーディネーター

「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」代表理事。生活クラブ生協の活動に関わり、江戸川区議会議員を 2 期 8 年務める。その他、未来パンク事業組合理事、えどがわエコセンター理事、江戸川子どもおんぶす理事など地域で活動。

■竹村英明（たけむら・ひであき）：開会あいさつ

環境エネルギー政策研究所（ISEP）顧問。エナジーグリーン株式会社副社長。3.11 後に誕生した「東日本大震災ながら・ぬくもりプロジェクト」事務局長。e シフトでは総合アドバイザー的に活動中。ブックレット『脱原発と自然エネルギー社会のための発送電分離』の 4 章を執筆

■吉田明子（よしだ・あきこ）：司会

e シフト事務局担当。国際環境 NGO FoE JAPAN スタッフ、原発・エネルギー担当。福島原発事故後、福島支援やエネルギー政策問題、e シフトの運営に携わる。